

レベル：初級・中級

領域：共通領域

2019年度 一般社団法人日本臨床心理士会研修会

「災害心理支援活動の方向性の共有と今後の課題」 ～心理職として災害支援に携わるために～

講座の内容等：災害支援プロジェクトチームでは2018年度に「災害支援心理士活動ガイドライン（以下、ガイドライン）」を作成し、会員に広報したところです。わが国では今後、地震や豪雨など、各地でさまざまな種類の災害等が起こることが想定されています。この状況に対して当会として災害支援活動に関する情報共有や活動体制の準備を引き続き行なう必要があります。

当会災害支援プロジェクトチーム及び被害者支援委員会が合同企画しましたこの研修会では、全国の団体会員における災害支援担

当者、災害支援心理士（CPAT）登録者、及び災害心理支援に関心があり、支援活動に参加する意志のある会員を対象に、ガイドラインの共有と検討、そして災害時の活動のあり方について検討を行います。臨床心理士の専門性を生かした災害支援を実現するために、たくさんの方にご参加いただけることを願っております。

なお本研修会への参加をもって希望者は災害支援心理士（CPAT）への登録資格とします。

日 時	2019年12月1日（日） 10時受付開始 10:30～16:40
会 場	跡見学園女子大学4階 東京都文京区大塚1-5-9 地下鉄丸の内線茗荷谷駅下車3分
プログラム 第1部 10:30～12:30	シンポジウム「災害心理支援ガイドラインの共有と検討」 コーディネーター：川畑 直人（前災害支援プロジェクトチーム代表、 前被害者支援委員長） シンポジスト：池田 美樹 災害支援プロジェクトチーム委員 渡邊 素子 災害支援中部ブロック代表 岡田 幸彦 広島県臨床心理士会 中垣 真通 前被害者支援委員会副委員長 ガイドラインのとりまとめに当たったプロジェクトチームからその概要を説明したあと、災害時に支援活動に直接携わることが想定されるブロック代表の立場、実際に被災した県士会の立場、当会被害者支援委員会の立場から、ガイドラインの問題点について意見を出していただきます。その後会場全体で討論を行います。
第2部 13:30～15:00	講演「県士会における受援のマネジメント：熊本地震の経験から学ぶ」 コーディネーター：池田 美樹（前掲） 講 師 矢島 潤平 別府大学 今後の災害時に想定される団体会員間の組織的な連携を考える上で、受援（支援の受け入れ）をどのように取り仕切るかは、重要な課題であると思われます。熊本地震の際、大分県臨床心理士会としてマネジメントにあたったご経験から、そのポイントについてお話いただきます。

第3部 15:10～16:40	シンポジウム「災害支援の現場で有用な活動を行うために」 コーディネーター：小俣 和義 災害支援プロジェクトチーム委員 シンポジスト：野村 れいか 沖縄国際大学 山口 剛史 NPO 法人カウンセリングオフィス SARA 松本 寿弥 名古屋大学 どれだけ支援活動が組織化されても、実際に赴く被災地の状況は千差万別であり、また目まぐるしく変化します。有用な活動を行うためには、現地のニーズをくみ取り、柔軟に対応する適応力が求められます。このシンポジウムでは、災害支援に携わった臨床心理士から、現場での経験を報告していただき、今後の支援活動に必要な臨床心理士の資質、それをバックアップする組織体制について考えたいと思います。
--------------------	---

参加資格：臨床心理士・公認心理師・守秘義務のある専門職・大学院生 定員 100 名

参加費：

社）日本臨床心理士会 会員	5,000円
臨床心理士（非会員）、その他	8,000円
大学院生（臨床心理士資格未取得に限る）	3,000円

ポイント：2

申し込み方法：日本臨床心理士会WEBページよりお申込みください。

